学びをひろげる（第 36 回）

※　○は、自分以外の参加した人の数です

（わたしと○（まる）人の会）

日　時　　2021 年９月 25 日（土）（1 時 45 分～5時）
場　所　城東区民センター4 階　大会議室
〒536-8510 大阪市城東区中央 3-5-45　TEL06-6932-2000
参加費　　500 円（会場費・運営費等）※学生は、無料です。
Zoom 参加を希望される方は松森までメールにて申し込んでください
matumori@crux.ocn.ne.jp　　入室の URL と資料を送ります。
終了後、上限 500 円とする投げ銭（カンパ）をお願いします。

一人で拡がらない学びを○（まる）人が集まり、多様な人たち（年齢、国籍、職種など様々な人たち）との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合いましょう。

地下鉄　長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目駅」1番・7番出口　徒歩約５分

京阪電鉄　野江駅　徒歩約８分

今回　第 36 回は　牧口一二（まきぐち いちじ）さんが登場！

牧口一二さんを知る人は多いだろう。「きらっといきる」（NHK 教育）の司会者として 10 年間レギュラー出演している姿を覚えている人。大阪の解放教育読本「にんげん」で『三角ベースのルールづくり』を学習した人。教科書で読んだ、今も教材として使っているという人。1000 回を超えるほど続けた学校での出前授業を直接受けた人もあるかもしれません。現在は被災障害者支援「認定 NPO 法人　ゆめ・風基金」代表理事として活動中。もし、知らない人があったら、この機会を逃さずにぜひ知ってください。牧口さんと参加者とで、対話をしながら進めて行きたいと思います。

牧口さんが自らプロフィールを送ってくださいました。これを読むだけで、話を聞いてみたくなり、言葉を交わしてみたくなるのではありませんか――

1937 年大阪市生まれ（84 才）◆１才の頃ポリオにかかり「障害者」の資格？を得る◆６才の春、母におぶわれて小学校へ出向くも、第二次世界大戦中で「空襲の時に危険」と入学を断られる◆敗戦を待つように３年後、また母におぶわれ小学校へ。「お待たせしました」と迎えられ、ピカピカドロドロの１年生◆で、３つ下の妹と６年間同じクラス◆10 才（小２）の夏休みに松葉づえで歩けるようになり、２学期から松葉づえ通学（カバンは妹に）◆以後、中学・高校卒業まで妹と同じ学校（中学からは別のクラスに）◆高校卒業まで体育はずっ～と見学。その時間に想い出多く、まるで体育の時間に育てられたよう◆遠足・旅行は不参加（高校最後の旅行は参加、級友におぶわれて阿蘇の頂へ）◆その後、大阪美術学校デザイン科卒業するもまったく就職できず、３年間の精神的孤立状態を体験（親・姉妹弟がいたのでセーフ）◆美校卒の３年後、学友４人が資金を出し合ってデザイン会社を設立する際、仲間に入れてもらう（恩師に借金）◆ブランク状態から仲間にやっと追いつき、少し落ち着いた３０歳の頃、障害者問題に直面し（障害児が親に殺される事件が頻発）「障害のプラス面を一冊の本にしたい」とＡ社全国版の読者欄に投稿し、１年かけて『われら何を掴むか』を自費出版。それが世間へのデビューとなる。

前回　第 35 回の内容

ゆったりと、世間話のように、スタッフの松井と松森の二人で学校について、教育について語り合うことにしました。お互いにとって３時間余り、しゃべり続ける機会は初めてのことで、これもまたなかなか面白い「教育的対話」が生まれたのではないかと思っています。詳細はユーチューブを視聴していただければ幸いです。https://youtu.be/9RoSi42FTCI

松井さんはいつも経験を通して語る。だから話していると、私の奥底でひっそりと隠れていた、いや隠していた本音が、松井さんの言葉に共振して思わず声となって出てきそうになる。いやいつの間にかしっかり結び合って言葉を交わすことになっている。心の奥の方にあるちょっとしたキズを刺激して、恥ずかしくなったり、温かくなったり、なんといってもそれは面白い体験だ。この心の柔らかな反応を引き出す言葉こそが教育現場で求められているのだと思います。

「学びをひろげる」スタッフ　松井 直哉、　松森 俊尚（090・1960・3469　matumori@crux.ocn.ne.jp）
“学びの会”ホームページ　http://gakimon.main.jp/manabiwohirogerupe-ji.html